

【報告④】

台湾統治関係史資料の現状と今後の課題

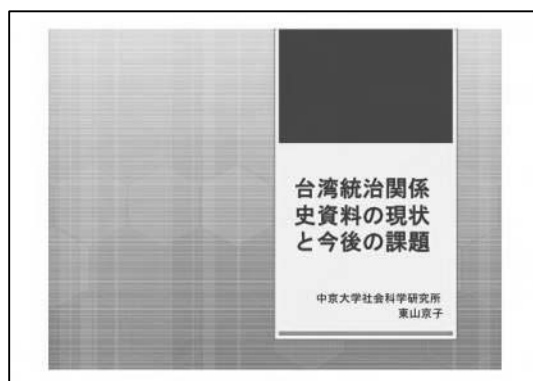
中京大学社会科学研究所 東山 京子 氏

中京大学社会科学研究所の東山です。よろしくお願いします。

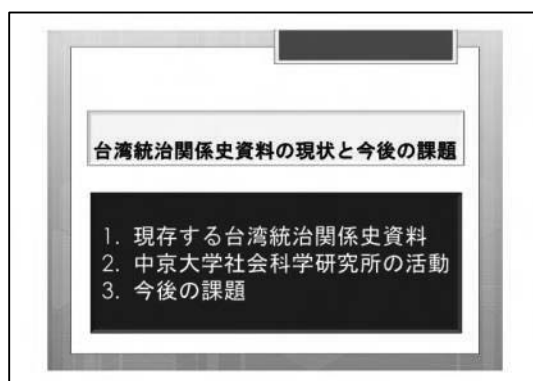
今日は、皆さんの発表が私にとってはとても刺激的でした。その中で私の発表が「大学アーカイブ」にどのような関係があるのかということもありますが、現在、私が所属する研究所が収集してきた資料の現状、そして今後の課題についてお話をさせていただきたいと思います。

そして、今日は小池館長から、ぜひアドバイスをいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

レジュメは26ページからですが、パワーポイントを作成しましたので、こちらを使用して説明させていただきたいと思います。

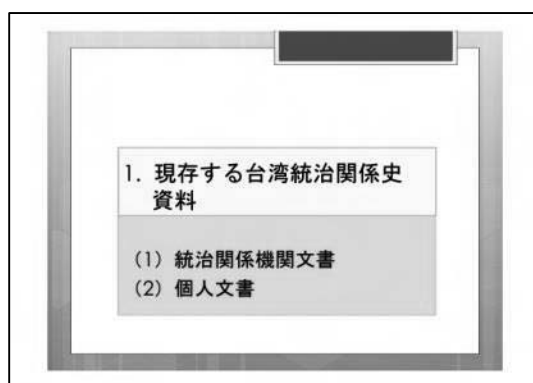


<スライド1：表紙>



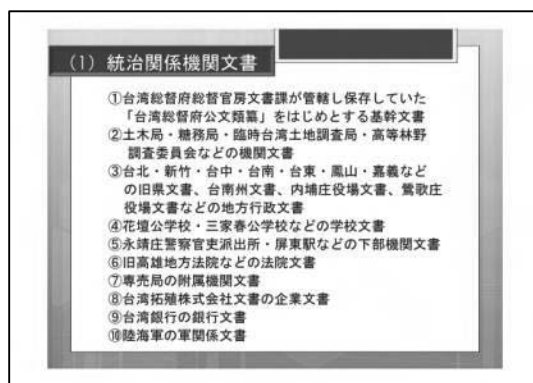
<スライド2>

テーマは、「台湾統治関係史資料の現状と今後の課題」ということで、第一に「現存する台湾統治関係史資料」、第二に「中京大学社会科学研究所の活動」、第三に「今後の課題」と順にお話をさせていただきますが、最後の今後の課題に関しては、皆さんにご意見を頂戴したいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。



<スライド3：1. 現存する台湾統治関係史資料>

まず、現存する台湾統治関係史資料として、日本が50年間統治をしました台湾における行政機関である「台湾総督府」やそのその関係各機関の資料が、現在どれだけ残っているのかを紹介したいと思います。



<スライド4：(1) 統治関係機関文書>

スライド4 (1) の統治関係機関文書としては、①番の台湾総督府の官房文書課が管轄して保存しておりました基幹文書である『台湾総督府公文類纂』、②番の土木局や糖務局などの総督府内の機関文書、③番の台北・新竹・台中・台南・台東・鳳山・嘉義などの地方行政機関の旧県文書、台南州の州文書、内埔庄や鶯歌庄などの村役場文書などの地方行政文書、④番の花壇公学校・三家春公学校などの学校文書、⑤番の永靖庄の警察官吏派出所や屏東駅の文書、⑥番の旧高雄地方法院の法院文書、⑦番の総督府の附属機関である専売局文書、⑧番の台湾拓殖株式会社の企業文書、⑨番の台湾銀行の銀行文書、⑩番の陸海軍の軍関係文書などが現存しております。

このうちの①番～⑤番、⑦番、⑧番に関しては、台湾南投市にあります国史館台湾文献館が所蔵しております。⑤番の派出所は、永靖庄の警察派出所に現存しております。屏東駅の文書については後ほどお話しますが、私が調査した際には屏東駅が保管しておりましたが、今の屏東駅にはありません。⑥番目の旧高雄地方法院文書は、高雄地方法院の岡山の所蔵庫において保管されております。日本の岡山ではなく、台南の岡山です。⑨の台湾銀行の銀行文書は、台湾銀行の書庫に、一部は日本銀行に現存すると聞いております。陸海軍の軍関係の文書は、防衛省の防衛研究所にございます。



<スライド5：国史館台湾文献館 文献大楼>

この写真（スライド5）が、国史館台湾文献館の文献大楼で、台湾総督府文書・台湾総督府地方行政文書である役場文書、専売局文書、台湾拓殖株式会社文書が、この建物の3階の書庫に保存されております。



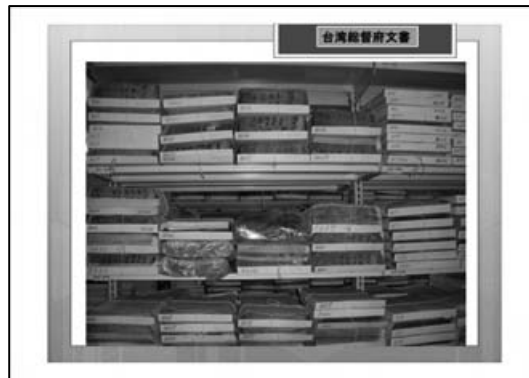
<スライド6：台湾文献館内書庫>

この写真（スライド6）が、国史館台湾文献館文献大楼の3階の文書庫内の写真です。



<スライド7：台湾総督府文書>

この写真（スライド7）が、台湾総督府の基幹文書ですが、現在は、このような簿冊の形では残っておりません。デジタル化に伴い四つ目綴りで製本されていた糸をすべて切ってしまうため、アーカイブズ学的に言うと、原形保存の原則が守られなかったという文書になります。



<スライド8：台湾総督府文書>

現在は、(スライド8)のように、簿冊ではなく、綴じずに中性紙の箱に包まれて横積みで保存されております。



<スライド9：台湾総督府専売局文書>

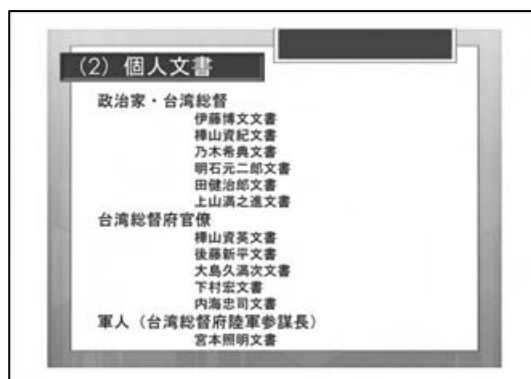
次に、この写真(スライド9)が専売局文書です。台湾総督府文書、専売局文書、台湾拓殖株式会社文書がこの書庫内に保存されております。

このほかに、1階には閲覧室があり、その奥の書庫に台湾総督府地方行政文書である台北州鶯歌庄の役場文書が保存されております。



<スライド10：学校文書>

この写真(スライド10)が学校文書で、三家春公学校と花壇公学校の文書です。これらの文書は、内埔庄文書が国史館台湾文献館に移管された時期と同じ2009年に同台湾文献館へ移管されました。



<スライド 11 : (2) 個人文書>

次に、個人の文書について報告したいと思います。

個人の文書については、政治家または台湾総督の文書では、伊藤博文文書、樺山資紀文書、乃木希典文書、明石元二郎文書、田健治郎文書、上山満之進文書が、台湾総督府官僚の文書としては、樺山資英文書、後藤新平文書、大島久満次文書、下村宏文書、内海忠司文書が、軍人関係では、宮本照明文書が日本に現存しております。



<スライド 12 : 奥州市立後藤新平記念館>

この写真（スライド 12）は奥州市立後藤新平記念館です。こちらに後藤新平文書が保存されております。



<スライド 13>



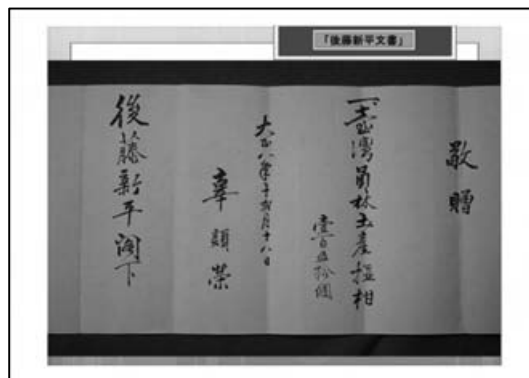
<スライド 14>



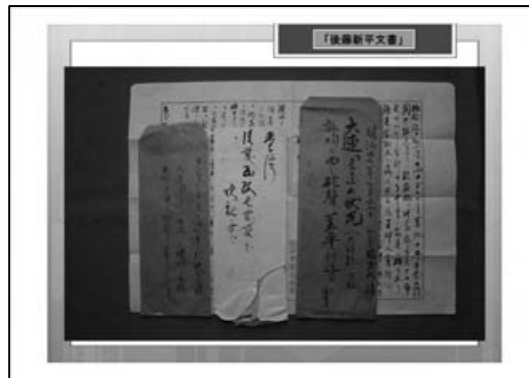
<スライド 15>

スライド 13 と 14 が後藤新平記念館内の写真です。展示施設が 1 階と 2 階にあり、2 階の書庫に書簡のほか台湾総督府関係などの公文書類も保存されております。その台湾総督府関係史料には、『台湾統治資料』（スライド 15）などの文書もあります。

この後藤新平文書の中で書翰のみを十数年ほどかけて中京大学社会科学研究所が中心となり整理を致しました。これらの史料集はデジタル化されて雄松堂アーカイブズ株式会社から DVD 『後藤新平書翰集』として 2009 年に刊行しています。

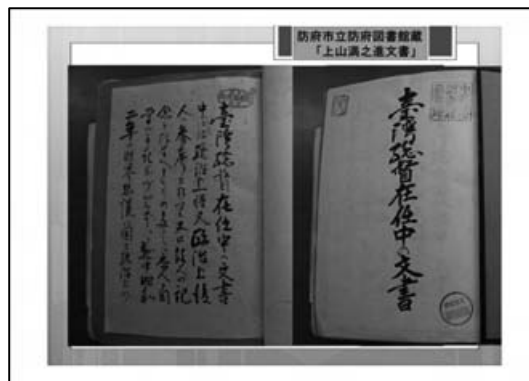


<スライド 16 : 「後藤新平文書」 >



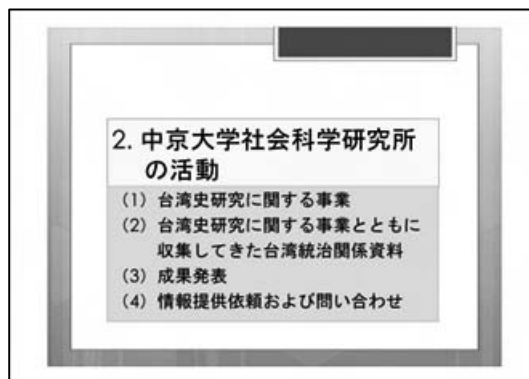
<スライド 17 : 「後藤新平文書」 >

スライド 16 とスライド 17 の写真が、後藤新平記念館所蔵の書翰です。



<スライド 18 : 防府市立防府図書館蔵「上山満之進文書」 >

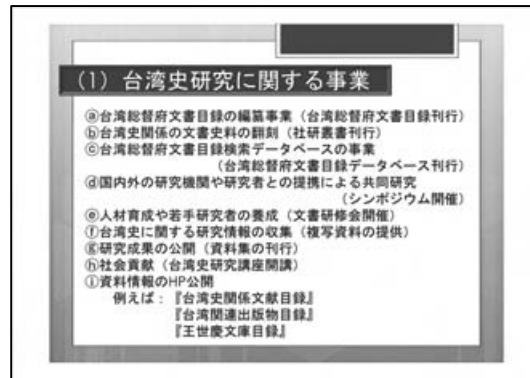
次のスライド 18 は、上山満之進文書で、台湾総督在任中の文書類が簿冊で現存しています。これらの上山満之進文書は、防府市立防府図書館が所蔵しております。これらについては台湾歴史史料研究会から『台湾近代史料研究』のなかで翻刻しております。



<スライド 19 : 2. 中京大学社会科学研究所の活動 >

そこで、次に中京大学社会科学研究所がどのような活動をしているのかを報告したいと思います。

(1) 台湾史に関する事業、(2) (1) の台湾史に関する事業とともに収集してきた台湾統治関係資料の整理および公開、(3) (2) の整理と共に行ってきた成果の発表、(4) 台湾研究に関する情報提供および問い合わせへの対応などを行っております。



＜スライド 20：（1）台湾史研究に関する事業＞

台湾史の研究に関する事業としては、今年で 33 年になります a の台湾総督府文書目録の編纂事業を行っています。現在、大正 4 年の目録を編纂中であり、12 月または来年の 1 月には『台湾総督府文書目録』第 30 巻を刊行する予定です。

b の台湾史関係の文書史料の翻刻、これは研究所の叢書として刊行しております。

c の台湾総督府文書目録検索データベースの事業として、『台湾総督府文書目録』をデータベース化しております。現在は、明治 28 年から大正元年までの作成が完成しており、大学の図書館などに寄贈しております。

d の国内外の研究機関や研究者との共同研究としては、研究所主催でシンポジウムを開催し、発表論文を纏めて研究所の叢書として刊行しております。

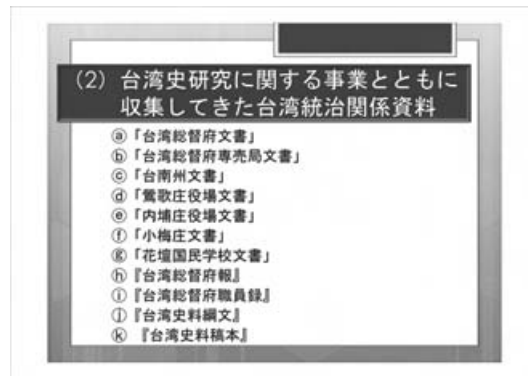
e の人材育成や若手研究者の養成としては、台湾の院生および学生を対象として、これまでに 6 回、台湾文献館・国立台湾大学・国立台湾師範大学、国立政治大学において台湾総督府文書講習会を実施しました。

f の台湾史に関する研究情報の収集は、目録作成のために収集してきた複写資料や書籍などを整理し、台湾研究に関する情報提供や問い合わせなどに対応しております。

g の研究成果の公開ということでは、資料集として『台湾近代史資料』の刊行をしてきました。

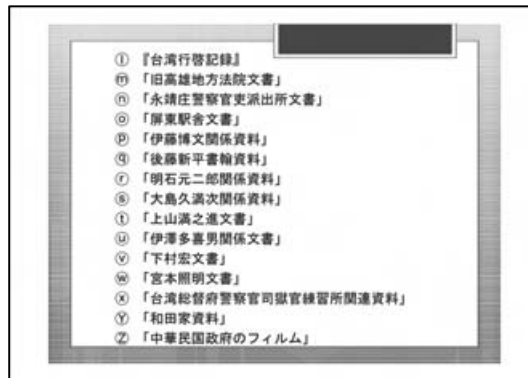
h の社会貢献としては、台湾史研究講座を大学で開講しておりまして、秋期だけですが、3 ヶ月間、オープンカレッジにて行っております。

i の資料情報のホームページ公開としては、社会科学研究所の台湾史研究センターのホームページで『台湾史関係文献目録』・『台湾関連出版物目録』・『王世慶文庫目録』を公開しております。



<スライド 21 : (2) 台湾史研究に関する事業とともに収集してきた台湾統治関係資料>

(2) の台湾史研究に関する事業とともに収集してきた台湾統治関係資料としては、『台湾総督府文書』・『台湾総督府専売局文書』・『台南州文書』・『花壇国民学校文書』・台湾総督府の村役場文書をそれぞれ一部ではありますが収集しております。このスライドの中にあります『小梅庄文書』については収集しておりませんので間違いですが、これについては後ほどお話致します。



<スライド 22>



<スライド 23 : 台湾行啓記録 (宮内省版) >

スライド 23 は、宮内庁所蔵の『台湾行啓記録』(全 4 冊)で、研究所の叢書として翻刻して刊行しましたので、これらの史料についても一部収集しております。



<スライド 24 : 台湾行啓記録 (台湾総督府版)>

スライド 24 の『台湾行啓記録』は、台湾総督府版 (全 49 冊) として国立台湾図書館に所蔵されております。この国立台湾図書館は、日本統治時代の台湾総督府図書館ですので、台湾総督府図書館から引き継がれたものの多くが収蔵されております。



<スライド 25 : 屏東駅舎文書>

さて、屏東駅の『屏東駅舎文書』ですが、スライド 25 の写真のように『辞令簿』などの昭和 17 年から 20 年までの文書が保存されておりました。しかし、現存しておりません。数年前に再度調査を行うために屏東駅に問い合わせをしましたが、現駅長さんはこれらの史料に関しては見たこともなく、全く知らないということでした。前駅長さんに問い合わせても知らない。というわけで、これらの史料の発見当初、西日本新聞の取材によりこれらの史料については記事になっていましたので、注目されると却って無くなってしまうということが台湾ではおこってしまうんですね。したがって、この写真にあるような『屏東駅舎文書』は、私たちの調査の際に撮影 (時間的都合で全ての文書は撮影できなかったが重要な文書は撮影し、それを翻刻した) した文書複写記録が唯一現存する史料情報として、貴重なものになってしまったわけです。

次に台湾の役場文書でも台湾文献館以外に保存されている小梅庄の文書については、私が台湾文献館のシンポジウムにて内埔庄役場文書の文書管理について報告をした際に、コメントをしてくださった先生が、内埔庄だけでなく小梅庄の役場文書も現存するといって写真などを使って紹介してくださったので、是非とも一度現物を見てみたいとお願いしましたところ、整理中のためということで断られました。十数年も前に檜山先生はそ

の大学を訪れてそれらの文書を見ているわけですから、断られる理由が分からなかったのですが、研究中であったり、研究発表後においても、公開されないということもあるということを知りました。これに関しては問題提起のところでも取り上げたいと思います。



<スライド 26： 中華民國政府フィルム>



<スライド 27： 中華民國政府フィルム>

そして、スライド 26 から 28 が、社会科学研究所において所蔵している中華民國の政府フィルムです。映写機で上映する大きなフィルムですね。スライド 27 は蔣介石の葬儀のフィルムです。

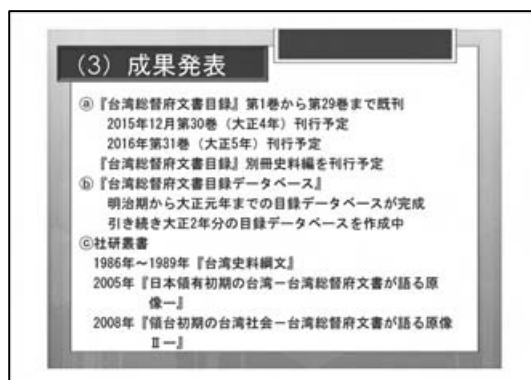


<スライド 28： 中華民國政府フィルム>

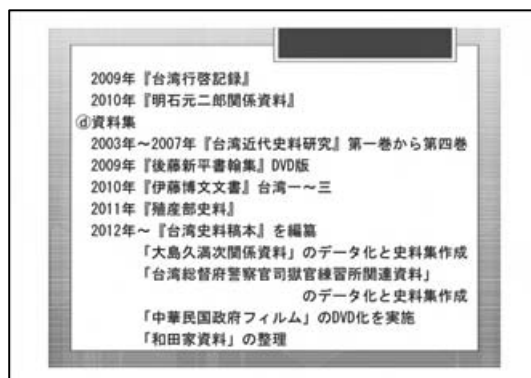
スライド 28 の上部にあるのが CD ケースですので、どれだけの大きさが分かると思います。台北駐大阪経済文化弁事処（台湾の領事館）からの寄贈でして 100 点ほどあります。

中華民国政府の宣伝用フィルムとして貴重だということで、現在、DVD化しております。

このように、中京大学社会科学研究所は、台湾史を研究して33年経ちますが、日本ではあまり知られていない、特に大学内ではあまり知られていないんですね。台湾では台湾史研究の実績があることは広く知られているのですが。



<スライド 29 : (3) 成果発表>



<スライド 30 : (3) 成果発表>

スライド 29 と 30 が、成果発表として、研究所において行ってきたことですが、それは兎も角として、33年間かかって『台湾総督府文書目録』を編纂し刊行し続けてきました。目録編纂刊行事業、これが研究所が誇るべき事業の一つです。やがて30巻が刊行されますが、台湾総督府文書の永久保存文書は昭和9年までしかなく、昭和20年までの文書は太平洋戦争に突入し敗戦国となったために、編纂されず仮綴のまま中華民国政府に接收されました。少なくともこの簿冊化された永久保存文書の目録が完成するまでは絶対に目録編纂を続けていきたいと思っております。続けることが一番大事なことだと思っておりますので、檜山所長はあと3年半で退職されますが、是非ともこの目録編纂刊行事業にはずっと関わっていただきたいと思っております。

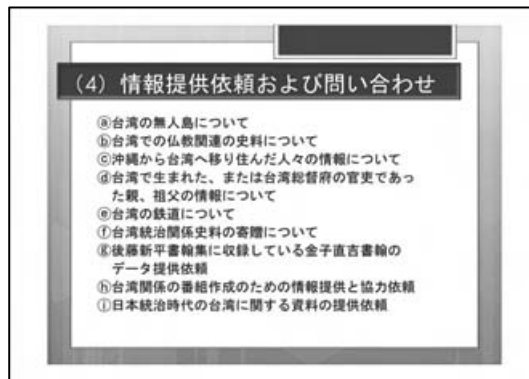


<スライド 31>



<スライド 32>

スライド 31 と 32 は研究所の台湾関係の叢書ですが、さらにもう 2 巻発刊しております。できればこのように成果を毎年出していきたいと思っております。



<スライド 33 : (4) 情報提供依頼および問い合わせ>

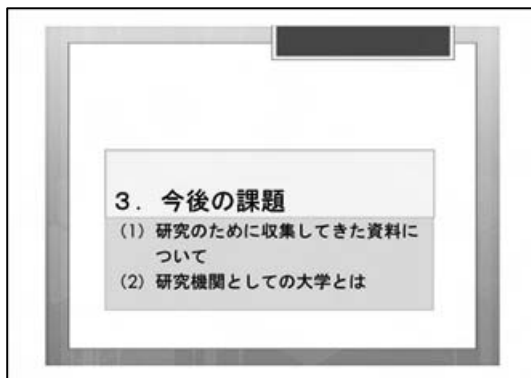
次に (4) の情報提供の依頼と問い合わせですが、研究者だけでなく、一般の方からはインターネットで検索をしたということで、中京大学が台湾関係の研究をしていることを知り、いくつか問い合わせがあります。

台湾の無人島についての資料、仏教関係の史料、沖縄から台湾へ移住した人々について、台湾で生まれた祖父の情報など、さまざまな問い合わせがありますが、研究所の史料で調べられるもの、台湾において調べられるもの、できる限りのことをして調べます。必要な史料はコピーをして送っています。すると、結構喜んでくださいます。

このほかに、台湾関係史料の寄贈もあります。これは、国立国会図書館や国立公文書館へ寄贈したいと相談に行っても引き取ってくれないとの相談を受けて、その方々のご自宅へ行き、それらの史料を引き取り、研究所の史料として所蔵しております。これらの史料については、史料集として公開するために整理をしてデジタル化を進めています。

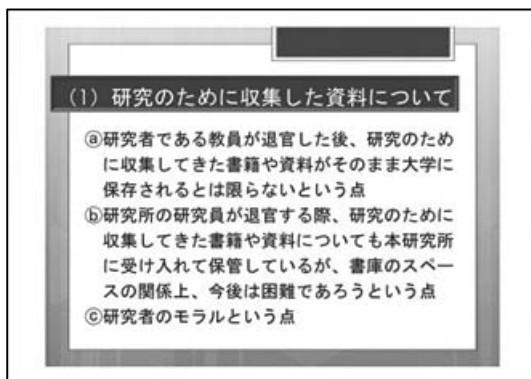
また、大正期日本一の総合商社であった鈴木商店を題材にした「お家さん」というドラマがありましたが、ネットによる記念館「鈴木商店記念館」を立ち上げるということで双日（前鈴木商店）の方から、鈴木商店の大番頭であった金子直吉に関する史料の提供を依頼され、後藤新平記念館において整理しました金子直吉の書翰のデータを提供しました。それらの史料は、双日のホームページ内の「双日歴史館」に掲載されております。

このように、情報および史料の提供や、テレビ番組作成のための協力依頼がきますので、日本にあるものないものに限らず調べて、史料を提供しております。



<スライド 34：3. 今後の課題>

最後に、「今後の課題」が今日一番の課題です。研究のために収集してきた資料について、そして研究機関としての大学とは何かということです。



<スライド 35：(1) 研究のために収集した資料について>

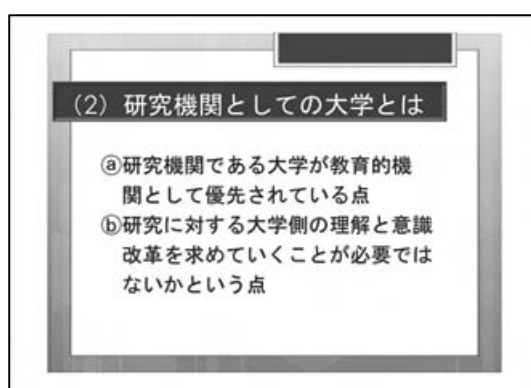
まず、研究者や研究員が退職した後に、収集してきた資料はどうなるのかという点です。研究所では、研究員が退職されるときに、書籍や史資料などを研究所に寄贈したいという相談があれば、研究所で引き取り、研究所内の書棚に配架しております。たぶん、檜山先生が所長であり、史料を残すということに関心があるため、受け取ってこられたということもあります。現在、研究所の書架は、もうすでにスペースがありません。しかし、研究

のために収集した史資料や書籍を、退職されたからといって捨てるわけにはいかないんですね。

今の一番の問題点は、台湾研究を33年間続けてきて、沢山の史料を収集してきましたが、檜山所長が退職される3年半後はどうなるのだろうか、とても心配です。今から私は悩んでいるわけです。

皆さんの大学はどうでしょうか。研究者が退職された後に、収集してきた資料はどうされているのでしょうか。それを皆さんにお聞きしたいと思います。

次に、研究者のモラルの点です。台湾の役場文書である小梅庄の話にもなりますが、大学の研究者が研究してきた史料について、研究発表後においても史料の公開がなされないというモラルの点についての問題点です。



<スライド 36 : (2) 研究機関としての大学とは>

最後に、研究機関である大学が教育的機関として優先されすぎているという点です。大学では科研費や財団などへ助成申請を行い外部資金を取ることで研究をしているわけですから、研究機関として、大学に研究室や資料を残したいと。それらを大学に残し、公開し、後世につなげていきたい。そういう大学にできればと思っています。

中京大学は、スポーツに関する分野ではとても有名で、スポーツ博物館を建設する構想があります。しかし、研究機関として、研究成果をきちんと伝えていくのも大学の使命ではないかと思っているんですね。だから、大学とは教育だけでない研究機関でもあるという大学側の理解、意識改革を求めていくのも研究者の使命ではないかと思っています。

これらの問題点については、是非とも皆さんのご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(東山氏・報告終了)